

01 ダイバーシティウィーク2023開催

通算3回目の開催となる今年度のダイバーシティウィークは、「知る」+「体験する」+「つながる」をテーマに学生・教職員を対象としたダイバーシティ啓発イベントとして、11月20日(月)～24日(金)に全コンテンツ揃って初の対面形式で開催し、期間中はのべ179名にご参加いただくことができました。

〈day.2〉【異文化体験】ワールドツアー in CUC

全4日程のうちday.2では「体験する」プログラムとして、「ワールドツアー in CUC」を開催しました。留学生や海外研修参加学生が世界各国のブースを出展し、その国や特産品の紹介、お菓子の試食や各ブースを巡る世界旅行の疑似体験を通じて、様々な文化に触れ、異文化コミュニケーションに対する理解を深めることができました。



「知る」+「体験する」+「つながる」ダイバーシティを意識してみる1週間。

ダイバーシティウィーク 2023
Diversity Week 2023

<<参加無料>>

<p>day.1 【知れない変遷】 【シンポジウム】 11/20(月) 13:30～15:15 (105分)</p> <p>ゲストスピーカーによる「パラダイム」についての講演と、人権社会学部のアフォーミング・ダイバーシティの取り組みを通じて、「知らない」の有無や意識・態度の増進を図ることの大切さを話し、世界を繋ぎつなげていく、ディスカッションを行います。</p> <p>【講師】 パラスポーツ経験者・化療歴 ゲストスピーカー 藤原 政憲 氏 MC 山本あゆみ 氏</p>	<p>day.2 【グローバル】 【異文化体験イベント】 11/21(火) 12:00～13:30 (90分)</p> <p>留学生及び海外研修参加学生が各国のブースを出展し、その国の紹介を行います。お菓子や飲み物・グッズを販売・体験・試食したり、特産品やお菓子を食しながら世界旅行の疑似体験ができるイベントを開催します。</p> <p>出展予定の国: インド、中国、韓国、台湾、スコットランド、オーストラリア</p> <p>学生と国際課スタッフ</p>
<p>day.3 【ジェンダー】 【ワークショップ】 11/22(水) 13:30～14:30 (60分)</p> <p>ジェンダーの視点で考える 異文化・異国・異世代・異世代</p> <p>自然災害の多い日本、私たちは日頃から災害に備えるという意識をもち、対応を急ぐ必要があります。みんなを守るための防災対策「ジェンダー視点」で考えていきます。</p> <p>ワークショップでは、防災グッズを活用し、最新の防災知識を身に付けていきます。</p> <p>【講師】 トランスジェンダーのボランティア活動 講師: 小野 正樹 氏 二階堂 真由美 氏 (行政学部長)</p>	<p>day.4 【異文化体験】 【講演会】 11/24(金) 13:30～15:15 (105分)</p> <p>多文化共生 アフォーミング・ダイバーシティ・異文化体験の大切さを考えてみよう</p> <p>自分自身がついていないものの見方や捉え方のなかで「異文化」こそがアフォーミング・ダイバーシティ(無意識の思い込み)といえます。当日は、大学におけるアフォーミング・ダイバーシティ(異文化共生)の取り組みについて、異文化共生学における取り組み事例について質疑応答ワークショップで理解を深めます。</p> <p>講師: 小野 正樹 氏 校長秘書 山本あゆみ 氏(行政学部長) 国際課学生と国際課職員 藤原 政憲 氏</p>

ダイバーシティを体験する。
【体験会】 11/20(月) 12:45～13:30 (45分)

day.1「パラダイム」を通じて出会う、知る、つながるの体験の延長線上に、パラダイムの体験会を開催します。ダイバーシティウィーク2023に参加していない方も参加することができます。

楽しく体験しながら新たな発見をしましょう。協力: 社会福祉院、サテック

ダイバーシティを考える。
【パネル展】 11/13(月)～11/30(木)

付随イベント「でもオーストリア」
付随イベント「でもオーストリア」がまたあつた! 付随イベント「でもオーストリア」の予約が開始です。

【対面形式開催】
11/20(月)～11/24(金)

イベント開催は、こちら
対象: 本学学生・教職員
申込: 事前申込不要!

主幹 千葉商科大学ダイバーシティ推進委員会 i2-diversity@cuc.ac.jp

02 学生への支援活動について 生理用品無料提供ディスペンサー OiTr(オイテル)運用開始!

2023年10月から、生理に伴う経済的負担の軽減やSDGsの経済格差やジェンダーギャップといった不均衡の是正に寄与するために【生理用品無料提供ディスペンサー「OiTr(オイテル)」】を学内女性用トイレの一部に導入しました。

「OiTr(オイテル)」は、女性用個室トイレ内の生理用ナプキンを常備したディスペンサーに、スマートフォンをかざすことにより、生理用ナプキンを無料で受け取ることができるサービスです。

導入開始後まだ日が浅いですが、多くの学生に利用いただいております。今後も利用者の声を聞きながら、新たな設置についての検討をすすめていきます。

※設置場所(2024年2月現在)

1号館1F、3号館1F・2F、体育館1F(女性用トイレ計6箇所)

03 ダイバーシティの 尊重はなぜ必要か —自由な社会を生きる条件—

人々の多様な属性や価値観、嗜好や志向を尊重することが必要なのはなぜでしょうか。

人間は一人で生きていくことはできず、集団を必要とします。同時に、私たちは「わたし」という個を大事にしたいし、それを他の人にも認めてもらいたいと思っています。その結果、集団のルールに従うことと、「わたし」を大事にすることはしばしば衝突します。このバランスをとっているのが社会なのですが、集団と個人、どちらに重きを置くかは時代や状況によって異なります。概して言えば、物質的な生活水準や安全性が低い社会では集団のルールが優先され、一定の経済生活や安全が保障されている社会では個人の自由が拡大されると言えるでしょう。

現代の日本は、経済や安全が高い水準で保障されている一方で、「生き方」の追求という意味では不自由さを感じる社会でもあります。ダイバーシティの尊重が求められる理由の一つはここにあります。一人一人が大事にしたいと思っていることを、社会も大事にしようとしているのか。それをチェックしていくことが必要です。なぜならば、ダイバーシティの尊重は、私たちが自由な社会を生きるうえでの条件だからです。

ダイバーシティ推進委員会委員
政策情報学部 准教授
権 永詞

CUC 千葉商科大学
Chiba University of Commerce